

〔科目名〕 教養演習	〔単位数〕 4単位	〔科目区分〕 演習科目				
〔担当者〕 下村 育世		〔授業の方法〕 演習				
〔演習テーマ〕 近代とはいかなる時代か ——明治以降に変化したモノ・コトを歴史に着目しながら考える (2)生活編						
〔演習内容〕 <p>2024年の大河ドラマ「光る君へ」では安倍晴明が登場し、貴族たちの求めに応じて占いや呪術を行っていた。今では陰陽師といえば物語のなかの架空の存在のように思われがちだが、彼らは明治初期まで公家社会だけでなく生活世界にも実在していた。しかし政府は明治初期に陰陽師の身分を廃し、彼らは日本社会から公的に姿を消した。また仏教僧侶の結婚や肉食も、長い伝統のようだが、明治初期の法令に基づいて宗派を問わず自由に認められるようになった結果である。生活に息づいていた祭にも変化があった。例えば江戸三大祭の一つである山王祭は、江戸時代には(太陽暦でいうと)5月の初夏に行われていたが、明治改暦により6月中旬の梅雨期へと移された。氏子たちは雨天続きによる実施の困難を訴えたが、政府は日程変更を認めなかった。なぜ政府が神社固有の祭の日取りにまで介入したのか——これらの動きは、現在の政教分離の原則からは理解しがたいだろう。</p> <p>過去の人々は、同じ日本人であっても現代の感覚では理解しがたい考え方をすることがある。その際に「わからない」と切り捨てず、論理や背景を理解しようと努める姿勢が重要である。歴史学とは、「他者」を理解する営みでもあるからである。</p> <p>歴史の教科書では、それぞれの出来事について評価が定まったように記されることが多い。しかしその評価は、新資料の発見や解釈の仕方によって変化する。本演習では、テキストの輪読、関連資料の検討、受講者同士の議論、そして地域資料を用いた小規模な展示企画などを通じて、歴史学の方法と考え方を学ぶ。昨年度は、E.H.カー『歴史とは何か』(岩波新書、1962年)を輪読し、続いて百瀬響『文明開化 失われた風俗』(吉川弘文館、2019年)、小熊英二『<日本人>の境界』(新曜社、1998年)などを読んだ。</p>						
〔科目の到達目標〕 <ul style="list-style-type: none"> ・文章を正確に読み、それを要約できる。 ・読書レジュメを作成できる。 ・他者の意見を理解した上で、自分の意見を述べることができる。 ・批判的に読むということについて理解する。 ・図書館やデータベースを利用し、信頼に足る情報検索の方法を理解し、実践できる。 ・参考文献表を作ることができる。 ・研究にあたっての一連の手続きを理解する。 						
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2	DP3
〔前提条件〕 歴史や宗教に関心があることが望ましい。						

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

テストやレポート等は課しません。演習に毎回出席すること、必要に応じて読書レジュメなどを作成し発表することが必須です。議論においては積極的な発言を期待します。

〔教科書等〕

テキストは、履修学生と協議の上選定します。各自入手してください。

〔実務経歴〕

授業スケジュール

時期	テーマと内容
春学期	テキストの輪読(テキストをじっくり読む経験を積む) & 秋学期の準備(教員の収集した史資料コレクションから各自好きな史資料を選定)
夏休み	秋学期の準備(先行研究調査)
秋学期	研究に必要な手続きを経験する & テキストの輪読 教員のコレクションから、各自好きな史資料を選び、それについての先行研究調査をし(一部の必読論文などを皆で輪読)、演習内で発表した上で、その史資料についての正確な説明文を各自作成する。それらの成果を、「展示」で発表したい(昨年度は青森公立大学図書館にてミニ展示を行った。ハレパネを切るなど肉体労働も予定)。これらの作業を通じて、研究に必要な手続きを理解してもらおう。